



令和8年9月1日

呉市立原小学校
校長 梶本浩史

〈学校に通う理由〉

○「どうして学校に行かなくちゃいけないの？」

2学期の始業式で、子供たちにこんな問いを投げかけました。

「どうして学校に行かなくちゃいけないんですか。」

これまで、いくつもの学校で勤務し、多くの子供たちと出会ってきました。その中で、時々聞かれた質問です。

もちろん、学校に行く理由は一つではありません。勉強をするため、友達と一緒に活動するため、自分の得意なことや好きなことを見つけるため……。学校には、さまざまな学びや経験があります。その中で、私が子供たちに身に付けてほしいと願っていることのひとつが、「自分で考え、判断し、行動する力」です。

さらに、始業式では、子供たちに、

「人をいじめることは、よいことでしょうか。」

「お店にある物を、お金を払わずに自分の物にすることは？」

「授業中に、周りの人のことを考えず、大きな声でしゃべったり、勝手に歩き回ったりすることは？」

「友達の写真や住所を、本人の許しを得ずにインターネットで広めることは？」と問いかけました。

子供たちは、「よくないこと」と正しく判断しました。では、なぜ「これはよくない」と判断したのでしょうか。それは、これまで学校で、先生や友達と一緒に学び、考えてきたからです。

人を傷つけてはいけません。人の物を勝手に取ってはいけません。みんなが安心して過ごすためには、きまりを守ることが大切だ。インターネットを使うときには、相手の気持ちや権利も考えなければならない。

こうしたことを、日々の生活や学習の中で少しずつ学んできたからです。

○「知っている」だけではなく、「どうするか」を考える

学校では、国語や算数などの学習を通して、たくさんの知識や技能を身に付けます。

しかし、学校で育てたい力は、それだけではありません。

「これはどうするのがよいのだろう。」

「相手はどんな気持ちになるだろう。」

「自分はどう行動すればよいのだろう。」

そんなことを、友達や先生と一緒に考えることも、学校での大切な学びです。例えば、友達と意見が違ったとき。思い通りにならなかったとき。誰かが困っているとき。失敗してしまったとき。そのたびに、「自分はどうするのか」を考える。時には迷ったり、悩んだりしながら、自分なりの答えを見つけていく。こうした経験の積み重ねが、やがて子供たちの「生きる力」になっていくのだと思います。



○「知らなかった」では済まない時代だからこそ

今の子供たちは、私たち大人が子供の頃とは比べものにならないほど、多くの情報に囲まれて生活しています。特にインターネットやSNSは、便利である一方、使い方を間違えれば、人を傷つけたり、自分自身が危険な目に遭ったりすることもあります。「そんなつもりではなかった。」「知らなかった。」それだけでは済まされないこともあります。

だからこそ、知識を身に付けることが大切です。そして、その知識を使って、「どうすることがよいのか」を自分で考える力が、これからますます重要になるのだと思います。

○子供たちに「答え」を与えるだけでなく

私たち大人は、子供が間違えないように、つい先回りして答えを教えたくくなります。「こうしなさい。」「こうすればいい。」もちろん、それが必要な場面もあります。

しかし、すべての答えを大人が与えてしまうと、子供自身が考える機会を奪ってしまうこともあります。

だからこそ、学校でも家庭でも、「あなたは思う？」「どうするのがいいと思う？」「相手はどんな気持ちになるかな？」と、子供自身に考えさせることを大切にしたいと思っています。すぐに正解が出なくても構いません。考えて、迷って、誰かの意見を聞いて、もう一度考えてみる。そうした経験そのものが、子供たちを成長させていくからです。

○「自分で考えて生きる」子供たちに

これから先、子供たちが生きていく社会は、今以上に変化していくことでしょう。今はまだ存在しない仕事に就くかもしれません。これまでにない問題に直面するかもしれません。そのとき、誰かがいつも答えを教えてくれるとは限りません。だからこそ私は、子供たちに、「自分はどう考えるのか」「何が大切なのか」「どうすることが、よりよいのか」を自分自身で考え、判断し、行動できる人になってほしいと願っています。

学校は、知識を身に付ける場所であると同時に、学んだことを生かして、自分で考え、判断し、行動する力を育てる場所です。そして、その力は、学校だけで育つものではありません。日々の家庭生活の中で、子供と一緒に考えること。地域の中で、さまざまな人と関わること。失敗したときに、すぐに答えを与えるのではなく、「次はどうしたらいいかな」と一緒に考えること。そうした一つ一つの経験が、子供たちの力になっていきます。

2学期も原小学校では、子供たちが「分かった」「できた」と喜ぶだけでなく、「自分はどう考えるのか」「どうするのがよいのか」を大切にする学びを進めていきます。

学校と家庭、地域が一緒になって、子供たちが自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の意思で一歩を踏み出すことのできる人へと成長していくことを、これからも支えていきたいと思っています。

